

われら 達年世代



るトレーラー運転手は3人。船内では精緻で独特なドライビング技術が要求されるため、経験豊富な運転手ばかりを集めた精鋭部隊だ。

竹中さんは10代から他の運送業者で長距離トラック運転手などを経験し、45歳の2004年に同社に入社。RORO船の積み降ろし業務は15年ほどになる。「トレーラーを思い通りに動かす、狭いスペースにも素早くきっちり止めるのが醍醐味。今でも面白い仕事」と目を輝かせる。

週6便の苫小牧航路は毎日午後9時に船が入港し、翌前1時に出港する。貨物を積んだ長さ約13メートルの荷台(シャシー)をトレーラーでけん引し、約4時間の作業で計300台分を積み降ろしする。

海上輸送は定時性が求められるだけに、貨物の安全と作業時間の厳守が重要だ。

船内ではシャシーをレーンに沿って縦列に置いていく。シャシー

敦賀港を軸に港湾運送事業などを展開する敦賀海陸運輸(本社敦賀市)。同港に接岸する定期貨物船のRORO船の積み荷を、トレーラーを運転して乗降させる専門チームのリーダーが竹中博さん(60)だ。

敦賀海陸運輸貨物部 トラック班チームリーダー

竹中 博さん(60)

船から積み荷乗降 達成感をみんなで。



RORO船に積み降ろしする荷台(シャシー)をけん引するトレーラー運転手の竹中さん＝敦賀市の敦賀海陸運輸長尺事務所

間の隙間はわずか20秒ほど。作業時間3、4分で、ぶつげたり傷付けたりせずに置かなければならない。一方、埠頭のヤードにシャシーを置く際は、1人で固定する作業を行うなど肉体力動も伴う。4時間フルに神経を使い、体力もかなり使う」(竹中さん) 仕事だ

輸送業界は、トラック運転手の不足や働き方改革、環境対応による陸上輸送から海上輸送へのモデルシフトを背景に、RORO船の需要が伸びている。敦賀港でも今後さらにRORO船の積み降ろし作業が増るとみられ、後進の運転手育成は重要となる。

「トレーラー運転は正確さや慎重さが必要だが、時には思い切りの良も大事。若い人がカンカン出てきたら、後輩に実践の中で指導し、厳しい言葉を投げかけることもできるが、事故や安全に、スリーパーに時間厳守で作業したい」。何よりもチームでの達成感を大切にしている。(青木伸方)

頼りになります

森 久・運輸事業本部副

本部長 貨物部長



RORO船の積み降ろし業務は、長年の経験と高度な運転技術が必要。竹中さんには、この業務に運転手に向いてもらっている。仕事のことを話して話しかける。親戚の後輩に慕われ、「RORO船業務に将来チャレンジしたい」と意志を持つ若手社員も出てきている。

「RORO船業務に将来チャレンジしたい」と意志を持つ若手社員も出てきている。